

□10月5日説教(隅野徹牧師)短縮版「わたしたちは何をいただけるのか」(マタイ19:13～30)

今回の箇所の結論として私は25節以下を掘り下げます。25節で弟子たちは「それでは誰が救われて天の御国にいけるのか…」と言います。その言葉の真意は27節のペトロの言葉にあるように「ここまで、何もかもを捨てて従ってきたのに、それで天の御国に入れないのだったら、やっていられない」そんな泣き言に近い言葉だったと思います。しかしそんな不安を感じる弟子たちに対し、イエスは力強く答えられます。「人間が自分の力で罪から救われて、天の御国に行くことはできないが、神は何でもできる方だ。だから罪深い人間が、それでも天の御国にいくことができる道を開いてくださる。あなたたちのように、それでもわたしに付き従うなら、必ず天の御国で永遠の命を得ることが出来るのだ。」そのような太鼓判を押して下さったと私は受け止めました。

弟子たちは多くの失敗をしました。弟子たち同士での喧嘩や言い争いもあったと聖書には記されています。しかしそれでもイエスは、天の御国での永遠の命をあなたたちは確かにいただくことができると断言されるのです。

これを私たちへのメッセージとして受け取りましょう。生きていく中で、思い通りにならず怒りを覚えたり、失敗や過ちも犯すことでしょう。しかし、それでも泥臭く神・キリストとともに歩む思いを新たにしていきましょう。その先に永遠の命があるのです。(終)